新潟水俣病ってどんな病気ですか？



Q1 新潟水俣病は、いつごろわかったのですか？



A1 新潟では、1965（昭和40）年５月31日に新潟大学から新潟県庁に報告があり、６月12日に正式に発表しました。

新潟では、1965（昭和40）年５月31日に、新潟大学医学部から新潟県庁に「原因不明の有機水銀中毒患者が阿賀野川下流地域で散発している」という報告があり、新潟水俣病の発生が公式確認されました。さらに、６月12日に「阿賀野川流域に有機水銀中毒患者７人発生、うち２人死亡」と正式に発表されました。

その９年前の1956（昭和31）年５月１日に、新日本窒素（後にチッソ）附属病院から水俣保健所に熊本県水俣市で原因の分からない病気が発生していると報告があり、この日が水俣病の発生が公式に発見された日となっています。

なお、政府が熊本と新潟の水俣病について統一見解（熊本はチッソ水俣工場、新潟は昭和電工鹿瀬工場から流されたメチル水銀化合物が原因）を出したのは、全国の同種の工場が操業を停止した後の1968（昭和43）年９月26日です。



Q2 「新潟水俣病」という名前はなぜついたのですか？



A2 新潟水俣病は、熊本で発見された水俣病が新潟で発生したからです。

新潟水俣病は、日本で発生した第２の水俣病です。

1956（昭和31）年に熊本で病気が発見された当時は、原因がわからず、「奇病」と呼ばれたり、伝染病ではないかとおそれられたりしましたが、発生した地域の名前をとって「水俣病」と呼ばれるようになりました。

新潟では、1965（昭和40）年６月12日に新潟大学と新潟県庁が正式に発表した翌日の新聞に「新潟に『水俣病』発生」と掲載され、その後「新潟水俣病」と呼ばれるようになりました。